



# おおあし

第3号

《 大芦小HP <https://oashi-e-konosu.edumap.jp/>  》

## ライス・フィールド

6月の異名は「水無月（みなづき）」です。6月といえば入梅の季節です。雨が毎日のように降り続けるのにどうして「水」が「無」くなる「月」なのか？ それは、昔は田植えのために川から水田に水を引き入れるので川の水が無くなるということが語源の一つのようです。

昨年度は、本校の伝統である5年生の米作りを再開することができました。新型コロナウイルス感染症予防に十分注意しながら、「苗切り」「田植え」「稲刈り」「脱穀」の四工程を学校応援団「大芦っ子ファンクラブ」皆様のご指導の下、貴重な体験をすることができました。以前、私が吹上北中学校に勤務していたとき、2年生の林間学校で新潟県を訪れ、二泊三日の農業体験学習をしたことがありました。その中の一つに田植え体験もあり、秋には収穫された米が送られてきました。大変意義深い林間学校でありましたが、本校の場合は、地元の田んぼ、地元の農家の皆様の指導であり、そして自分たちが植えた稲の生長を毎日観察でき、稲刈りまでできる点で違いがあります。（実際は、水の管理や雑草の除去、害虫の駆除など煩雑な作業が多数あります。）

「米」という漢字を分解すると「八十八」となり、これは、田植えの準備から収穫されるまでには八十八回の手間がかかっているという意味になるそうです。児童はたった4回の関わりでしたが、ほんの少しでも米作りの苦労や収穫の喜びを味わったのではないかと思います。これを機会に、「フードロス」が問題となっている現在、食べ物をできるだけ残さずに、生産や運搬、料理等に関わった方に感謝して味わって食べてほしいと思います。私たちは、生き物の「命」をいただいてこそ生きていけるのです。間違っても、川や田んぼや畑にゴミを捨てるような人にはなってほしくありません。

ところで、次の英語は第二次世界大戦後、アメリカとの国交が再開した時に、日本の大臣がアメリカの大臣にあいさつしたときのスピーチだと言われています。（真偽のほどは不明です。）

Your country is rice country. My country is rice country.

あなたの国は「米」の国です。※アメリカを「亜米利加」「米国」ということから。

私の国は「米」の国です。 ※米が豊かに実り味もおいしく、米を主食としている。

日本は、米作りが伝来されて以来、稲作を中心として栄えてきた歴史があります。人々が一定の土地で安心して暮らせるようになったのもそのおかげです。狩猟や木の実や果物の採集では、獲物や果実等が無くなるとほかの土地へ移住しなくてはなりません。しかし、稲作により安定的に収穫があると貯蔵もできるため移住の必要もなくなります。

さて、表題「ライス・フィールド」は、「深夜特急」で有名な作家 沢木耕太郎氏が、バリ島で宿泊したホテルの前に広がる稲田について語ったタイトルです。（「VISA No.563」）

二階建てのコテージの二階にあったその部屋は、まさに稲田という名の緑の海の真ん前にあった。（略）緑の稲以外になにもない。それが思いもしなかったほど心地よい。私は広いベランダにある天蓋つきのデッキベッドに横になって稲田を眺めていると、いつも知らないうちに眠っていたものだった。そして、知ったのだ。私たちには、稲というものが、食べるものとしてだけでなく、見るものとしても幸せをもたらしてくれるものだということ。

これから、学校周辺の田んぼでは、まさに一面の「ライス・フィールド」となります。自然環境に恵まれた本校は、机上以外にもたくさんの学習ができます。大変、ありがたいことです。

結びに、俳句を一句紹介します。 「一点の 偽りもなく 青田あり」 山口誓子

（校長 橋本 浩）